

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高大接続改革の中で、高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のよう可能な限り総合的な英語力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。
- 「リーディング」、「リスニング」ともに、共通テストの問題のレベルは、出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例、言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるよう、引き続き、CEFRの概ねA1～B1レベルを目安として問題のテキスト、使用する語彙、タスクなどを設定し、問題を作成することとする。
- 「リーディング」の表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」の音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。また、読み上げ回数については、1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和8年度共通テストでは、令和7年度の問題構成を踏襲し、設問数は33、解答数は44、本文と設問及び選択肢を合わせた総語数は約5,600語となった。各大問の出題意図は以下のとおりである。

第1問	簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれているテキストを読み、情報を理解する力を測る。ここでは、ダンスコンテストで着用するコスチュームについてのメッセージのやり取りを読む。
第2問	簡単な語句や比較的平易で短い文で書かれている説明を読み、その概要や要点を把握したり、推測したり、また、事実と意見を整理しながら情報を読み取ったりする力を測る。ここでは、イギリスの大学の寮に関する調査と学生のコメントを読む。

第3問	平易な英語で書かれたごく短い物語文を読み、概要・展開を把握する力を問う。ここでは、瞑想のクラスで起こったトラブルと教師の対応から得た著者の学びについて書かれた文章を読む。
第4問	英語の授業において文章を作成する過程で、自分が書いた原稿に対する教師のコメントを踏まえて、読み手に分かりやすいように文章の論理の構成や展開に配慮して文章を修正する力を問う。ここでは、推敲することを前提に「ゴミの適切な処理」(waste management)に関するニュースレターの原稿を読む。
第5問	平易な英語で書かれた複数の資料を比較しながら、必要な情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を理解する力を問う。ここでは、図書館イベントの案内、本の推薦文、それに関連するメールを読む。
第6問	平易な英語で書かれた物語を読み、その概要を把握する力を問う。ここでは、剣道に励む中学生のMitsukiと、おにぎり屋のおじいさんとの交流を描いた物語を読む。
第7問	日常的、社会的話題に関する文章を読み、概要を把握し、情報を整理する能力や論理展開を把握する能力を測る。ここでは、「マインドワンダリング（さまよう思考）」に関する記事を読む。
第8問	社会的な問題に関して異なる意見が書かれた複数の資料を読んで理解した上で、自分のとる立場を支持する資料を見極め、作文のアウトラインを作成するために様々な資料から情報を得る力を問う。ここでは、スポーツにおけるテクノロジーの利用の是非についての資料を読む。

本年度の『英語（リーディング）』の本試験受験者数は455,114人で、昨年度の453,668人より若干増加した。平均点は昨年度の57.69点よりやや上昇し、62.81点であった。難易度及び得点状況の観点から今回の試験はおおむね適切なレベルであったと言える。また、試験の信頼性や、識別力も高く、全体的にバランスのとれた標準的な問題であった。各問題の解答結果について以下に詳細を述べる。

第1問の各正答率は想定範囲内であったが、問2は比較的低かった。この問いは、ダンスコンテストの衣装に関するメッセージのやり取りから、後半パートの衣装を示しているイラストを選ぶ問題であったが、細かいところまで文章を読み取る必要があった。

第2問の各正答率も想定範囲内であったが、問1は比較的低かった。この問いは、事実と意見を区別しながら文章を読み進める力が求められる問題であったが、誤った事実あるいは意見を述べた選択肢を選択した受験者が一定数いた。学校現場におけるリーディング指導への波及効果を期待して、今後も同様の形式を出題の選択肢として維持することは妥当であると考えられる。

第3問においては、問2と問3が問1と比べて正答率が低かった。問2は物語の展開に沿って選択肢を時系列に並べ替える完答問題で、問3は物語の語り手が自身の体験から学んだことを問う問題であった。どちらも物語を理解する上では重要な情報の読み取りで、これらの問いの識別力は高かった。

第4問は昨年度から導入された新傾向の大問の一つである。自分が書いたエッセイに対する教師からのフィードバックを受けて、原稿を推敲するという設定のもと、主に文章構成や文と文のつながりに注目して文章を読む力を測っている。全体を通して正答率は比較的高かった。

第5問は、複数の異なるジャンルの文章を読み、情報を統合、整理して読み取る問題で、全体を通して正答率は想定範囲内であったが、問5の正答率が比較的低かった。この問いは、メールの書き手の意図（含意）を読み取る問題で、表面的な文章理解のみでは正解できないことから、思考力・判断力がより一層求められる問いであった。

第6問は、長めの物語を読んで、登場人物の特徴や心境、そして物語の展開を読み取る問題であった。全体の難易度はおおむね適切であったが、問1と問2の正答率が他と比べて低かった。問1は、登場人物の行動や態度から、その人物の性格を読み取る問題で、文中に書かれた具体的な情報を抽象化して捉える力が求められた。問2は物語の展開を時系列で、完答問題であったことが、正答率が低くなった理由の一つであると考えられる。

第7問の正答率はおおむね想定内であった。五つの設問のうち問2は完答問題で、正答率は比較的低かった。この問いは、本文の内容を理解した上で、その内容が適切に言い換えられたものを、五つの選択肢の中から二つ選ぶ問題で、他の問いと比べ、やや負荷の高いものになったかもしれない。

第8問は昨年度から導入された新傾向の大問の一つである。この大問は、各問いに正解するためには、複数の短めの文章を、細部までしっかりと読み込まなければならない。この大問の正答率は比較的高く、出題形式に対する慣れの影響があったかもしれない。ただし、その中でも問3の正答率は比較的低かった。この問いは完答問題で、スポーツにおけるテクノロジーの利用の是非について、五名の意見の中から、同じ立場を取っている二名を選んだ上で、その二名に共通する論点を読み取る問題であったことから、受験者にとっては負荷が高い問題となったのかもしれない。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

各方面からはおおむね肯定的なコメントが得られた。

まず、高等学校教科担当教員からは、「高等学校段階で身に付けた総合的な英語力を測るものとしておおむね適切であった」「思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容となっている」「コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、受験者の読むスピードだけでなく総合的な英語力を評価するテストとして適切であった」など、高い評価を得た。また、各大問題の難易度についても、「幅広い受験者に対応できる問題構成であった」というコメントから、共通テストが受験者の英語力を多岐にわたって測ろうとしていることが改めて確認された。

第4問について、「高校生が書いている未完成原稿という設定」から未熟な言語使用が散見される本文を問題文として使用しているがゆえに、設問で問われている箇所以外にも修正の余地があるため、「設問には含めないコメントを付すこともできるのではないか」とのコメントを頂いた。また、ニューズレターという媒体およびその校閲という場面設定に必ずしもそぐわない文体やコメントが含まれていた、という指摘もあった。これらの点については、総語数との兼ね合いを見ながら、引き続き、高等学校での「書くこと」の指導の実態に沿った問題作成に取り組みたい。

第6問については、「物語は場面が想像しやすく、設問も基礎的な読解力を問うもので、おおむね適切である」という高評価を頂いた一方で、問1について、正解選択肢に含まれていたrudeという単語が、「本文の内容と結びつきづらく、難易度の高い問題となったと思われる」とのご指摘もあった。物語文の読解において、登場人物に関する具体的な描写から、その人物の性格や感情を読み取ることは大切なスキルであることから、文章を正しく理解できた受験者が迷わず正解を選べるように、引き続き留意して問題作成に取り組んでいきたい。

教育研究団体からは、「様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっている」「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている」との評価を頂いた。その一方で、「短い時間の中で単に注意力や情報処理能力を測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題であることが求められる」ことから、「今後も語数を増やすことには慎重になるべき

である」とのコメントがあり、引き続き総語数の観点から受験者にとって過度な負担になりすぎないように留意していきたい。

第4問について、「書くこと」の力を問うていると言えなくもないが、実質的には読解力を問うているのではないかと指摘があった。この大問では、受験者自身が書いたと想定される文章について、教員からのアドバイスを受けて文章構成や表現等を推敲する力を測ることを目指しており、当該文章の内容を正しく読み取ることが前提となっている。このように、「読むこと」と「書くこと」の両方に焦点を当てて出題を試みていることから、『英語（リーディング）』のテストを通して受験者の「書くこと」の力を間接的かつ適切に測る方法については、引き続き出題意図に沿った良問の作成に尽力したい。

第5問について、複数の資料を読んだ上で情報を整理しながら把握することは「全体的に負荷が強かったとも言えるが、設問で求められていることは明確で、選択肢に紛らわしさもなく、良問であったと言える。今後もこの種の設問には期待したい。」との高評価を頂いた。特に、問3については、「思考力、判断力を問う良質な出題であった。」とのコメントを頂いたので、今後もこのような問題を多く作成できるように努めていきたい。

4 まとめ

『英語（リーディング）』は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であることから、幅広い受験者層に対応できる問題構成としている。今年度の『英語（リーディング）』本試験については、難易度が適切であることや学習指導要領のねらいを反映したテストになっているという点で、全体的に高い評価を頂いた。また、個々の設問の多くについても、出題の工夫を評価していただいたことに加え、十分な識別力があることが示され、受験者の英語力を適切に測ることができたと考えられる。

また、今年度の共通テストでも、昨年度から新たに加えられた新傾向の問題が引き続き出題されたが、2年目ということもあり、特に混乱なくテストが実施された。共通テストが学校教育現場、特に高等学校における英語授業にもたらす波及効果は決して小さくはないことから、これらの新傾向の問題に代表されるような共通テストにおける作問上の工夫が、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力の育成を目指し、技能を統合した言語活動の充実の実現に寄与することが期待される。このことを念頭に置いて、引き続き受験者たちが存分に実力を発揮して取り組める問題の作成に取り組んでいきたい。